

薬 剤 名 (商品名) (委託者名)	有効成分および 含 有 率	作物名	試 験 目 的	判定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
5. MGC-140 液 (つづき) 〔三菱瓦斯化学〕		馬 鈴 薯	〔作用性〕 ・増収効果.	中止		
6. MGC-141 液 〔三菱瓦斯化学〕	・未公開	大 豆 とうもろこし	〔作用性〕 ・生育促進.	継		・作用性についてさらに検討.
7. MGC-142 液 〔三菱瓦斯化学〕	・未公開	大 豆 とうもろこし	〔作用性〕 ・生育促進.	継		・作用性についてさらに検討.
8. M-O ₂ 粉 〔保土谷化学〕	・未公開 …28.9%	てんさい	〔作用性〕 ・ポット苗での発芽 安定化.	継		・作用性についてさらに検討.
9. SLF-W ₂ 液 〔昭和電工〕	・N: 16%, P ₂ O ₅ : 16%, K ₂ O: 12%, キレート金属 各20~30ppm	かんしょ	〔作用性〕 ・増収および品質向 上.	継		・作用性について再 検討.
		馬 鈴 薯	〔作用性〕 ・増収および品質向 上.	継		・適用性について検 討.

注) アンダーラインは本年度拡大された部分を示す.

昭和60年度畑作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和60年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会を昭和60年12月12日、日本都市センター会議室において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、定性試験3剤、作用性試験18剤、適用性試験24剤、細

粒剤試験6剤であった。

このうち、適用性試験、細粒剤試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行なった。

その結果は、次表の通りである。

27

昭和60年度 畑作除草剤試験中央判定および使用基準

A 適用性試験

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意、その他
1. アシュラム液＋ DCMU水和 (現地混用) ・アシュラム37% ・DCMU 78.5% 〔丸和パイオケミ カル・ローヌプ ーランジャパン〕	さとうき び(春植 え)	実 ・ 継	茎 葉	植付後20 ～40日	アシュラム 75～100ml/ ＋DCMU 10g	全 土 壤	暖地、沖 縄	継：ハマスゲに対する効 果、薬害の検討。
	さとうき び(夏植 え)	実 ・ 継	茎 葉	植付後20 ～40日	アシュラム 75～100ml/ ＋DCMU 10g	全 土 壤	暖地、沖 縄	
2. BAS-3510 (Na) 液 ・ベンタゾン(Na) 40% 〔住友化学工業〕	とうもろ こし	実	茎 葉	生 育 期 広葉雑草 発生前期 (3～6 葉期)	10～15ml	全 土 壤	全 域	・広葉雑草優占圃場で使 用する。 ・体系処理：イネ科雑草 対象の既登録土壌処理 剤を使用する。
3. CG-119・P 水和 ・メトラクロール 30% ・プロメトリン 20% 〔日本チバガイギ ー・武田薬品〕	大 豆	継						継：効果・薬害の再検討。
	落 花 生	継						
	かんしょ	継						
4. Dowco-453㊟ 乳 ・ハロキシホップ 10% 〔ダウケミカル日本〕	大 豆	実 ・ 継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	10 ml/ 7.5～10ml/	全 土 壤	寒 地	・イネ科雑草優占圃場で 使用する。 ・体系処理：広葉科雑草 対象の既登録土壌処理 剤を使用する。 ・低薬量(7.5ml)の検討。
	小 豆	実 ・ 継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	10 ml/		寒冷地、温 暖地、暖地	
	菜 豆	実 ・ 継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	10 ml/	全 土 壤	寒 地	
	て ん 菜	実 ・ 継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	10 ml/	全 土 壤	寒 地	
5. EH-275 水和 ・ターバシル40% ・DCMU 39% 〔丸和パイオケミ カル〕	さとうき び(夏植 え)	継						継：薬害の検討。

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意，その他
6. ジフェナミド粒 ・ジフェナミド 5%	ばれいし よ	実	土 壌	植 付 後 萌 芽 前	700～800 g	全 土 壌	寒冷地， 温暖地東 部	
7. グリホサート液 ・グリホサート 41% 〔日本モンサント〕	落 花 生	継						継：処理時期，散布方法 の検討．
8. Hoe-171① 乳 ・フェノキサプロ ップエチル 9% 〔三共・ヘキスト ジャパン〕	大 豆	実 ・継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	10～15m/	全 土 壌	寒冷地， 温暖地東 部，暖地	・イネ科雑草優占圃場で 使用する． ・体系処理：広葉雑草対 象の既登録土壌処理剤 を使用する． 継：低薬量 7.5 m/ の検 討．
	小 豆	実 ・継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	10～15m/	全 土 壌	寒 地	
	菜 豆	継						
	かんしょ	実 ・継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	10～15m/	全 土 壌	温暖地， 暖地	
	て ん 菜	実 ・継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	10～15m/	全 土 壌	寒 地	
9. HOK-833 水和 ・MCC 40% ・DCMU 7% 〔北興化学工業〕	大 豆	実 ・継	土 壌	播 種 後	50～75 g	全 土 壌	寒 冷 地	・過湿条件での使用をさ ける． ・砕土・整地・覆土はて いねいに行なう． 継：地域拡大．
	とうもろ こし	実 ・継	土 壌	播 種 後	50～75 g	全 土 壌	寒 冷 地	
					75～100 g	火山灰土	温暖地東 部	
10. HSW-802 乳 ・DNBPA 40% ・メトラクロール 20% 〔北海三共〕	大 豆	実	土 壌	出 芽 前	30～40 m/	全 土 壌	寒 地	
	小 豆	実	土 壌	出 芽 前	30～40 m/	全 土 壌	寒 地	
	菜 豆	実	土 壌	出 芽 前	30～40 m/	全 土 壌	寒 地	
11. KUH-813 乳 ・オルソベンカー ブ 50% ・リニュロン 7.5%	移植大豆	継						継：効果・薬害の再検討．
	落 花 生	実 ・継	土 壌	播 種 後	60～80m/	火山灰土 (砂土を 除く)	温暖地， 暖地	継：適用土壌の拡大．
	とうもろ こし	実	土 壌	播 種 後	80～100m/	全 土 壌	寒 冷 地	

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
11. KUH-813 乳 (つづき)	とうもろこし (つづき)				60～80 m/	火山灰土	温暖地, 暖地	
	<u>ばれいし よ</u>	実・ 継	土 壌	植 付 後 雑草発生 前	80～100m/	全 土 壌	寒 冷 地	継: 適用土壌の拡大,
					60～80m/	火山灰土	温暖地, 暖地	
〔クミアイ化学工業〕								
12. MK-140 N水和 ・アクロニフェン 30% ・ニトラリン 45% 〔三菱化成工業〕	大 豆	継						継: 効果・薬害の再検討.
13. NC-302 ㊤ フロアブル ・キザロホップエ チル 10%	大 豆	実	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	7.5～10m/	全 土 壌	<u>全 域</u>	・イネ科雑草優占圃場で 使用する. ・体系処理: 広葉雑草対 象の既登録土壌処理剤 を使用する.
	<u>小 豆</u>	実・ 継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	7.5～10m/	全 土 壌	寒 地	継: 適用地域の拡大,
	<u>菜 豆</u>	実・ 継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	7.5～10m/	全 土 壌	寒 地	継: 適用地域の拡大.
	落 花 生	実	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	7.5～10m/	全 土 壌	温暖地, 暖地	
	<u>かんしょ</u>	実・ 継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	7.5～10m/	全 土 壌	暖 地	継: 適用地域の拡大.
	<u>て ん 菜</u>	実	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	7.5～10m/	全 土 壌	寒 地	
〔日産化学工業〕								
14. NP-55 乳 ・セトキンジム 20% 〔日本曹達〕	ばれいし よ	継						継: 効果・薬害の再検討.
	こんにゃ く	継						
15. NS-100 乳 ・フェンメディフ ェム 13% ・デスメディファ ム 3% 〔日本シェーリング〕	て ん 菜	継						継: 効果・薬害の再検討.

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
16. NS-101 乳 ・フェンメディフ ァム 10% ・エソフメサート 10% 〔日本シェーリング〕	て ん 菜	継						継: 効果・薬害の再検討.
17. SKH-01 水和 ・シアナジン 50%	とうもろ こし	実・ 継	(従 来 通 り)					継: 処理時期の拡大につ いてはさらに検討.
〔シェル化学・石 原産業〕	ばれいし よ	実・ 継	(従 来 当 り)					継: 低薬量についてはさ らに検討.
18. SL-236 ①乳 ・フルアジホップ ーPーブチル 17.5%	大 豆	実・ 継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	7.5～10ml	全 土 壤	全 域	・イネ科雑草優占圃場で 使用する. ・体系処理: 広葉雑草対 象の既登録土壌処理剤 を使用する. 継: 低薬量(5.0ml)の検 討.
	小 豆	継						継: 効果・薬害の再検討.
	菜 豆	継						
	落 花 生	実・ 継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	7.5ml	全 土 壤	温暖地東 部	継: 適用地域の拡大.
	かんしょ	実・ 継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	7.5ml	全 土 壤	温暖地東 部	継: 適用地域の拡大.
〔石原産業〕	て ん 菜	継						継: 効果・薬害の再検討.
19. SL-287 水和 ・フルアジホップ 20% ・シアナジン 30% 〔石原産業・シェ ル化学〕	大 豆	継?						
	ばれいし よ	実・ 継	茎葉兼土 壤	植 付 後 萌 芽 前	15～20 g	全 土 壤 火山灰土	寒 冷 地 温暖地東 部	継: 適用土壌, 地域の拡 大.
20. SSH-55 乳 ・トリフルラリン 14% ・プロメトロン 6% 〔塩野義製薬〕	ばれいし よ	実	土 壤	植 付 後 萌 芽 前	80～100 ml	全 土 壤	全 域	・マルチ栽培への適用も 可能.
	こんにゃ く	継						継: 効果・薬害の再検討.
21. TM-362 ①乳 ・クロプロボキシ ジム 24%	大 豆	継						継: 効果・薬害の再検討.
	落 花 生	継						

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
21. TM-362①乳 (つづき) 〔 トーメン 〕								
22. トリフルラリン乳 ・トリフルラリン 44.5% 〔 塩野義製薬 〕	小 豆	継						継: 効果・薬害の再検討.
23. トリフルラリン粒 ・トリフルラリン 2.5% 〔 塩野義製薬 〕 〔 塩野義製薬 〕	小 豆 陸 稲	継 実・継	土 壌	播 種 後	400～500g 400～600g	火山灰土	温暖地東部 暖 地	・イネ科雑草優占圃場で使用する。 ・覆土2cm以下の場合、薬害の恐れあり、特に注意が必要である。
24. YF-65 液 ・パラコート10% ・ジクワット 14% 〔 アイシーアイジ 〕 〔 ヤパン 〕	かんしょ ばれいしょ こんにゃく	実・継 継 継	茎 葉	生 育 期	40～50ml	全 土 壌	温暖地東部	・畦間処理。 継: 適用地域の拡大。 継: 効果・薬害の再検討.
25. アラクロール乳 +アトラジン水和(現地混用) ・アラクロール 43% ・アトラジン 47.5% 〔 日産化学工業 〕	とうもろこし	実	茎葉兼土壌	イネ科雑草1～2葉期	アラクロール20ml + アトラジン15g	全 土 壌	寒 地	・単剤の使用基準を守る。

B 細 粒 剤 試 験

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
1. ANK-553 細粒 ・ペンディメタリン 2% 〔 ゴーゴーサン普 〕 〔 及会 〕	落 花 生	実	土 壌	播 種 後	500～600g	全 土 壌	温暖地, 暖地	
2. CG-119・P 細粒 ・プロメトリン 1% ・メトラクロール2% 〔 日本チバガイギ 〕 〔 ー・武田薬品工 業 〕	大 豆 落 花 生 (マルチ)	実・継 実・継	(寒冷地以西については従来通り)					継: 効果・薬害の再検討.
			土 壌	マルチフィルム被覆直前(播種前)	混和400～500g(但し、寒冷地500)表面200～300	全 土 壌	寒冷地, 温暖地東部	継: 適用地域拡大, 薬量の検討.

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
3. HOK-833 細粒 ・MCC 8% ・DCMU 1.5% 〔北興化学工業〕	大 豆	継						継: 効果・被害の再検討.
	とうもろ こし	継						
	かんしょ	継						
4. KUH-813 細粒 ・オルソベンカー ブ 8% ・リニュロン 1.2%	落 花 生	実	土 壌	播 種 後	500~600 g	全土壌(砂 土を除く)	温暖地, 暖地	継: 適用地域, 土壌の拡大.
	とうもろ こし	実 ・ 継	土 壌	播 種 後	500~600 g	全 土 壌 火山灰土	寒 冷 地 温暖地, 暖地	
	ばれいし よ	実 ・ 継	土 壌	植付後萌 芽前	500~600 g	火山灰土	温暖地, 暖地	
5. S-28 細粒	大 豆	継						継: 被害の検討.
	落 花 生	継						継: 効果・被害の再検討.
	ばれいし よ	実 ・ 継	土 壌	植 付 後	400~500 g	全 土 壌	暖 地	継: 適用地域の拡大.

注) ① アンダーライン(実線)は, 本年度拡大または追加された部分である. なお, 薬剤名のアンダーラインは, 本年度はじめて使用基準の作成されたものである.

② アンダーライン(点線)は, その一部が拡大されたものである.

編 集 後 記

如月……衣更着というからには, いくらかでも暖くなるのではないかと期待感を抱かせる。しかし, 日本海側では豪雪に見舞われ, 雪崩による被害が各地で発生し, 太平洋側ではカラカラ天気が続き, 寒波が次から次へと押し寄せ, 寒い日々が続く。この寒空の下で, 円高不況にあえぐ中小企業の倒産が相つぎ, 日本の将来は一体どうなるのであろうか, 一抹の不安が脳裏をかすめる。これからは, 外国からの安い農産物が上陸してくるであろうし, 農産物の国内消費量にも限界があるので, 農業経営もやりにくくなる。農業大国アメリカでも, 農業の不況が表面化し, 中小農家は脱農せざるを得ない状況となっている。このような状況下で, 農家

の生きるべき道としては, 生産基盤となっていく土地の有効利用等による兼業規模を拡大した方が賢明ではなかろうか。何れにせよ, 農家にも夢をみる機会を与えて欲しいものだ。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)832-4188(代)

昭和61年2月発行

植調第19巻第11号

定価 400 円(送料 170 円)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢 長人

発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)833-1821番(代)